

授業科目名	日本文化 I		
学科・年次	和裁科 1年次	時間数	13時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	
担当	(茶道)松下園甫 (華道)松下園甫 (風呂敷)久保村正高	テキスト	なし
授業目的	日本文化の中心にある着物をより理解するために、着物の着用シーンにある日本文化について学ぶ		
授業概要	茶道や華道など着物の着用シーンにある日本文化について学び、着物を着た際に活用できる風呂敷の扱い方や贈答文化について学ぶ		
到達目標	○茶道と華道の基礎を理解する。 ○風呂敷の使い方がわかる。		
授業計画	1回 華道① 2回 華道② 3回 華道③ 4回 華道④ 5回 華道⑤ 6回 茶道① 7回 茶道② 8回 茶道③ 9回 茶道④ 10回 風呂敷		
評価方法	出席状況		

授業科目名	色彩学 I		
学科・年次	和裁科 1年次	時間数	15時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	能口 祥子	テキスト	なし
授業目的	彩色の基礎知識(色彩検定3級レベル)を理解する。色彩と着物(和装・染・織)の関係を学ぶ。配色技法の基本と活用を学び、着物製作や着物のコーディネートに活用する。		
授業概要	彩色の基礎知識(色彩検定3級レベル)を理解するとともに、着物製作や着物のコーディネートに活用できるように演習や実習を通して学ぶ。		
到達目標	色彩の基礎知識を理解する。色彩を活用して着物の製作や着物のコーディネートに活かせる基礎を理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・色彩基礎 2 色彩基礎・トーンとイメージ、光と色 3 色彩基礎・混色実習 4 色彩基礎・色彩心理、色の視覚効果 5 色彩基礎・色のコラージュ 6 色彩基礎・色彩調和、基本配色実習 7 色彩基礎・きものカラーコーディネート、配色の基本的な技法 8 色彩基礎・配色イメージ、イメージによる配色演習 9 色名・日本の色の特徴 10 イメージ変換・イメージの作り方、イメージの変換 11 まとめ・筆記試験、きものRe style 		
評価方法	出席状況・提出物・授業態度		

授業科目名	きもの学 I		
学科・年次	和裁科 1年次	時間数	27時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	蛸原 香代子・大原 敏敬	テキスト	きもの基本 きもの文化検定 公式教本 I (ハースト婦人画報社・講談社)
授業目的	きもの基礎的な知識を覚える。		
授業概要	きもの文化検定の公式教本をテキストとして使用し、きもの全般的な基礎知識を理解する。11月に開催されるきもの文化検定4級以上の合格を目指す。		
到達目標	○きもの文化検定4級以上の合格 ○きもの全般的な基礎的な用語を覚える。		
授業計画	1回 着物を着るときに必要な物 2回 着物の種類と着こなし 部分名称 3回 基本的な帯の種類・小物 4回 羽織とコート 5回 男のきもの 6回 子供のきもの 7回 着物の主な産地と特徴① 8回 着物の主な産地と特徴② 9回 着物の歴史 10回 素材と夏物 11回 ゆかた 12回 基本的なコーディネート 13回 日本の色 14回 きもの文様 15回 紋 16回 各部の名称 17回 着物の収納と手入れたたみ方 18回 美しい立ち居振る舞い 19回 通過儀礼と装い 20回 総復習 21回 きもの文化検定試験対策① 22回 きもの文化検定試験対策②		
評価方法	出席状況、授業態度 テスト きもの文化検定合格級		

授業科目名	日本の文様		
学科・年次	和裁科 1年次	時間数	5時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	なし
授業目的	日本の文様について基本知識を学ぶ		
授業概要	日本の文様は長い歴史の中で形作られてきているが、その歴史やいわれ、歳時記と文様の関わりを学ぶ		
到達目標	○日本の文様のなりたちやいわれを理解する。 ○歳時記と文様の関わりを理解する。		
授業計画	1回 日本の文様の歴史 2回 日本の文様のいわれ 3回 陰陽五行と文様 4回 歳時記と文様① 5回 歳時記と文様② 6回 歳時記と文様③		
評価方法	出席状況		

授業科目名	染色基礎		
学科・年次	和裁科 1年次	時間数	7時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	着物学科の学生が学習したことを和裁学科の学生に教えることで学びを深め、和裁学科の学生は和服地の染色がどのように染められるかを体験を通して学ぶ。		
授業概要	ろうけつ染の手ぬぐいを、着物学科の学生が和裁学科の学生に指導し作品を完成させる。		
到達目標	(和裁学科)ろうけつ染で手ぬぐいを染めることができる。 (着物学科)ろうけつ染の手ぬぐいを、指導できるように指導計画書を作成する。和裁学科の学生が作品を染めることができる		
授業計画	<p>1回 ロウケツ染の説明 ロウケツ染手ぬぐい ろう置き・染色</p> <p>2回 ロウケツ染手ぬぐい 乾燥・定着・水洗い</p>		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	織物基礎		
学科・年次	和裁科 1年次	時間数	20時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	構 美智江	テキスト	なし
授業目的	着物学科の学生が学習したことを和裁学科の学生に教えることで学びを深め、和裁学科の学生は和服地の織物がどのように織上がるのかを体験を通して学ぶ。		
授業概要	講義で織の三原組織(平織・綾織・朱子織)を理解し、紙で織組織を作成してみる。卓上機を使用し整経から製織まで一通りの織物の工程を体験する。		
到達目標	織物の三原組織を理解する。整経から製織まで卓上機をつかい織物作品を製作する。		
授業計画	1回 織物について講義 2回 整経から製織までの実習① 3回 整経から製織までの実習②		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	着装 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	25時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	着物の着方と帯結びができるようになり、基本的着付けができるようになる		
授業概要	前期は浴衣の着付けを学び、自装、他装、男性浴衣の着付けまで行う。後期は自装で、普段着の着物の着方と名古屋帯の結び方を学び、試験を行う。その後、自装で準礼装の着付けと袋帯の二重太鼓まで行う。また2年生への導入として、他装で普段着の着付けを学ぶ。		
到達目標	基本的な着付けを学び、自装できるようになる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 浴衣の着方・半幅帯の結び方 2 浴衣の着方・半幅帯の結び方 3 浴衣の着方・男性浴衣の着せ方 4 浴衣の着方・他装 5 浴衣の着方・他装 6 長襦袢と普段着着物の着方 7 着物の着方と名古屋帯の結び方 8 着物の着方と名古屋帯の結び方 9 喪服の着方 10 普段着着物と着方と名古屋帯の結び方・テスト前練習 11 実技テスト 12 まとめ 13 伊達衿の使い方と袋帯の二重太鼓 14 長襦袢、着物の着せ方(他装) 15 普段着着物の着せ方と名古屋帯(他装) 		
評価方法	出席状況・実技試験・授業態度		

授業科目名	和裁実習 裁断・裁断理論 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	70時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	裁断テキスト 知識 裁断テキスト 実習 (大原和服専門学園)
授業目的	浴衣(男・女)・単衣長着(絹)・長襦袢・単衣羽織の形、構成、寸法を理解し、裁断の手順を理解する。		
授業概要	基本製作の製作実習に際して、裁断の基礎基本を理解するため浴衣・長襦袢・単衣羽織・単衣長着の裁断の知識を学ぶ。		
到達目標	裁断の基礎・基本を理解する。 ○単衣長着(木綿・絹)・長襦袢・単衣羽織の形、構成、寸法を理解する。 ○寸法の割り出しとへら付け身丈の計算ができるようになる。 ○検反、検尺の役割と手順、糸印の意味、種類による柄の配置を理解する。		
授業計画	11時間 基本的な裁断について 11時間 女物浴衣 11時間 男物浴衣 15時間 長襦袢 11時間 単衣長着 11時間 単衣羽織		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 裁断・裁断実習 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	87時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	裁断テキスト 知識 裁断テキスト 実習 (大原和服専門学園)
授業目的	浴衣(男・女)・単衣長着(絹)・長襦袢・単衣羽織の基本的な裁断ができるようになる。		
授業概要	裁断の手順を身に付けるため浴衣・長襦袢・単衣羽織・単衣長着の裁断実習をおこなう。		
到達目標	裁断の手順ができるようになる。 ○検反ができるようになる。 ○検尺ができるようになる。 ○見積もりができるようになる。 ○糸印を正しくつけることができる。		
授業計画	14時間 女物浴衣 14時間 男物浴衣 28時間 長襦袢 14時間 単衣長着 17時間 単衣羽織		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 基本製作・被服材料講義 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	21時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I (大原和服専門学園)
授業目的	和服地(木綿・化繊・絹)の扱いを理解する。		
授業概要	和服地の扱い方を理解するために、木綿・化繊・絹の扱い方を講義と演習を通して理解する。		
到達目標	和服地の扱い方を理解する。 ○木綿の扱い方を理解する。○化繊の扱い方を理解する。○絹の扱い方を理解する。		
授業計画	<p>1時間 和服の材料</p> <p>7時間 木綿の扱い方</p> <p>6時間 化繊の扱い方</p> <p>7時間 絹の扱い方</p>		
評価方法	出席状況・提出物・テスト		

授業科目名	和裁実習 基本製作・裁縫理論 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	130時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I (大原和服専門学園)
授業目的	基礎練習や部分縫いを通して着物の作り方を理解する。		
授業概要	着物の作り方の基本を理解するため、運針やマチ針の打ち方、基本的な作り方の部分練習をおこなう。		
到達目標	和裁の基礎動作ができるようになる。○運針ができるようになる。○並縫い・くけ・返し針など基本的な縫い方ができるようになる。○マチ針が打てるようになる。		
授業計画	130時間 運針		
評価方法	出席状況・提出課題		

授業科目名	和裁実習 基本製作・製作実習 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	490時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I・大裁女物単衣長着 (1)木綿仕立て(浴衣)・大裁女物無双袖裾折り返し長襦袢 (大原和服専門学園)
授業目的	和裁の基礎・基本を実習を通して理解し身につける。着物の基本的な種類の縫製手順を理解し制作することができる。		
授業概要	和裁の基礎基本を身につけるため、運針や道具の使い方の基礎練習とともに浴衣・長襦袢・単衣羽織・単衣長着・袷長着の課題製作実習をおこなう。		
到達目標	<p>和裁の基礎・基本を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎動作が身につき、和裁の基本を理解する。 ○浴衣・長襦袢・単衣羽織・単衣長着・袷長着の作り方を理解し縫えるようになる。 ○学習習慣を身に付ける。常に向上心を持ち取り組み技術習得に励む姿勢を身に付ける。 		
授業計画	<p>60時間 浴衣部分縫い</p> <p>53時間20分 女物浴衣制作</p> <p>53時間20分 男物浴衣制作</p> <p>66時間40分 袷長着部分縫い</p> <p>113時間20分 袷長着制作</p> <p>106時間40分 長襦袢制作</p> <p>36時間40分 単衣長着制作</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 課題製作・講義 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	140時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I・大裁女物単衣長着 (1)木綿仕立て(浴衣)・大裁女物無双袖裾折り返し長襦袢 (大原和服専門学園)
授業目的	浴衣・襦袢の産学協同システムの実践的な課題の扱い方を理解する。		
授業概要	基本製作で学んだ着物の縫製を、産学協同システムの実践的な課題を扱い方を理解する。課題製作の課題の実習前に、伝票の確認及び製作についてその都度教授を受ける。		
到達目標	○産学協同システムの課題の扱い方が理解している。○伝票を理解できる。○予習・復習をおこない、わからない点を確認できる。		
授業計画	<p>35時間 女物浴衣製作</p> <p>35時間 男物浴衣製作</p> <p>35時間 長襦袢製作</p> <p>35時間 袷長着製作</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 課題製作・実習 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	300時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I・大裁女物単衣長着 (1)木綿仕立て(浴衣)・大裁女物無双袖裾折り返し長襦袢 (大原和服専門学園)
授業目的	浴衣・襦袢の和裁の実践力を身に付ける。		
授業概要	基本製作で学んだ着物の縫製を、産学協同システムの実践的な課題の実習を通して、和裁の実践力を身に付ける。		
到達目標	○伝票を理解し、間違いなく縫製ができる。○予習・復習をおこない、わからない点を確認し実習をすすめることができる。○課題提出日を守ることができる。		
授業計画	<p>75時間 女物浴衣製作</p> <p>75時間 男物浴衣製作</p> <p>75時間 単衣羽織製作</p> <p>75時間 長襦袢製作</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 進級課題製作・講義 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	60時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I・大裁女物単衣長着 (1)木綿仕立て(浴衣)・大裁女物無双袖裾折り返し長襦袢 (大原和服専門学園)
授業目的	産学協同システムの教材を使用し、浴衣(男・女)・単衣羽織・長襦袢を一人で縫い上げ、課題製作後の品質確認・課題をフィードバックする。		
授業概要	課題提出日にあわせて浴衣(男・女)・単衣羽織・長襦袢を一人で縫い上げ、課題製作後の品質確認・課題をフィードバックする。		
到達目標	基本製作・課題製作で学んだ浴衣(男・女)・単衣羽織・長襦袢がテキストや教員などに確認をせず一人で縫い上げることができる。		
授業計画	<p>15時間 女物浴衣製作</p> <p>15時間 男物浴衣製作</p> <p>15時間 単衣羽織製作</p> <p>15時間 長襦袢製作</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 進級課題製作・実習 I		
学科・年次	和裁科・1年次	時間数	156時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I・大裁女物単衣長着 (1)木綿仕立て(浴衣)・大裁女物無双袖裾折り返し長襦袢 (大原和服専門学園)
授業目的	産学協同システムの教材を使用し、浴衣(男・女)・単衣羽織・長襦袢を一人で縫い上げることができる。		
授業概要	課題提出日にあわせて浴衣(男・女)・単衣羽織・長襦袢を一人で縫い上げる実習を行う。		
到達目標	基本製作・課題製作で学んだ浴衣(男・女)・単衣羽織・長襦袢をテキストや教員などに確認をせずに一人で縫い上げることができる。		
授業計画	<p>18時間 女物浴衣製作</p> <p>18時間 男物浴衣製作</p> <p>30時間 単衣羽織製作</p> <p>90時間 長襦袢製作</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	校外学習 I		
学科・年次	和裁科 1年次	時間数	13時間
授業方法	校外学習	実務教員科目	
担当	各担任	テキスト	なし
授業目的	古都奈良・京都で五感を通して日本文化や着物についてフィールドワークで学ぶ		
授業概要	古都奈良・京都は古い木造建物も多く、着物を着る観光者も増えているため、着物ユーザー目線を養うとともに着付けの練習機会として着物を着る機会として活用し、日本文化や着物に関する施設等を訪問し、学園で学んでいる着物を多面的にとらえられるように校外学習を実施する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○着物を着て外出できる。(前期は浴衣・後期は着物) ○着物をつくることと着物を着ることのつながりを考えられるようになる。 ○日本文化や着物に関することを学ぶ 		
授業計画	<p>1回 自分で染めた・縫った浴衣を着て祇園祭に行く</p> <p>2回 着物を着て正倉院展に行く</p>		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	日本文化Ⅱ		
学科・年次	和裁科 2年次	時間数	18時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	
担当	(茶道)松下園甫 (華道)松下園甫 (陰陽五行)岡本吉隆 (神社)八木尚宏 (家紋)森本勇矢	テキスト	なし
授業目的	日本文化の中心にある着物をより理解するために、着物の着用シーンにある日本文化について学ぶ		
授業概要	茶道や華道など着物の着用シーンにある日本文化について学び、様々な日本文化にかかわる専門家から講義を受ける。		
到達目標	○茶道と華道の基礎を理解する。 ○様々な日本文化について理解する。		
授業計画	1回 陰陽五行について 2回 華道① 3回 神社について 4回 華道② 5回 華道③ 6回 華道④ 7回 華道⑤ 8回 家紋について 9回 茶道① 10回 茶道② 11回 茶道③ 12回 茶道④		
評価方法	出席状況		

授業科目名	キャリア学習		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	5時間
授業方法	講義	実務教員科目	
担当	大原敏敬	テキスト	-
授業目的	最終学年の進路活動スケジュールを知り、会社の仕組みや着物業界・ブライダル業界・法衣装束業界・舞台衣裳業界の仕事について知り、自分の適性に合わせた進路を考えられ行動できるようになる。		
授業概要	段階的に自分の適性に合った進路を考えられるようになるため○最終学年の進路活動及びスケジュール○学園の就職活動にかかわる手続き○着物業界・ブライダル業界・法衣装束業界・舞台衣裳業界の仕事理解○会社の仕組み○会社の調べ方○自己分析の方法など講義を通して理解できるようにする。		
到達目標	○自分の適性に合った進路先を調べ考えられるようになる。		
授業計画	<p>1回 昨年の進路状況と就職活動と自己分析について</p> <p>2回 業界・会社の仕組みを知る。会社情報の収集方法を知る。</p> <p>3回 学校での就職のすすめ方について</p>		
評価方法	出席状況		

授業科目名	きもの学Ⅱ		
学科・年次	和裁科 2年次	時間数	14時間
授業方法	講義	実務教員科目	
担当	大原 敏敬	テキスト	きもの基本 きもの文化検定 公式教本Ⅰ・きものたのしみ きもの文化検定公式教本Ⅱ (ハースト婦人画報社・講談社)
授業目的	和服地の各産地の風土や歴史と特徴を自ら調べられるようになり、伝統的な工芸染織品の知識と価値を伝えられるようになる。		
授業概要	きもの文化検定の公式教本をテキストとして使用し、全国各地にある和服地の特徴と価値を理解し、グループに分かれて全国の和服地から1つを選びプレゼンテーションをおこなう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○全国の和服地の特徴と価値を理解する。 ○和服地の価格と作り方の関係を理解する。 ○和服地の魅力を伝えることができる。 		
授業計画	<p>1回 全国の和服地について①</p> <p>2回 全国の和服地について②</p> <p>3回 全国の和服地について③</p> <p>4回 和服地特別講義①</p> <p>5回 和服地特別講義②</p> <p>6回 和服地特別講義③</p> <p>7回 プレゼンテーション準備</p> <p>8回 プレゼンテーション準備・発表</p>		
評価方法	出席状況、提出物、プレゼンテーション		

授業科目名	きものの流通		
学科・年次	和裁科 2年次	時間数	4時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	石崎 功	テキスト	なし
授業目的	きものの流通について学ぶ		
授業概要	きものの流通の各段階(川上・川中・川下)の役割を理解するとともに、これからの流通の変化にモノづくりに求められることを理解する。		
到達目標	○着物の流通の各段階(川上・川中・川下)の役割がわかる。 ○これからの流通の変化についてわかる。		
授業計画	1回 きものの流通の役割について 2回 きものの流通の変化とこれからモノづくり求められること		
評価方法	出席状況		

授業科目名	きものの管理		
学科・年次	和裁科 2年次	時間数	4時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	大原 健嗣	テキスト	なし
授業目的	きものの手入れと保存、染み抜きなどきものメンテナンスについて学ぶ		
授業概要	きもの染色補正のプロより講義と実演できもの手入れと保存、染み抜きなどきものメンテナンスについて学ぶ		
到達目標	○きもの手入れと保存についてわかる。 ○汚れの種類によるしみ抜きの方法がわかる。		
授業計画	1回 きもの手入れと保管の仕方について 2回 きものしみ抜きについて		
評価方法	出席状況		

授業科目名	時代テーマ		
学科・年次	和裁科 2年次	時間数	8時間
授業方法	講義	実務教員科目	
担当	大原 敏敬	テキスト	なし
授業目的	きものが大きく変化した時代や華やいだ時代にテーマを置き、時代背景ときものの関わりを理解する。		
授業概要	平安時代の十二単など装束、安土桃山時代から江戸時代にかけての小袖、明治、大正、昭和時代の近代服飾の3つのテーマを専門家から講義をうける。		
到達目標	○時代背景ときものの関わりを理解する。 ○各時代の着物の特徴を理解する。		
授業計画	<p>1回 平安時代・平安装束 十二単と束帯 皇族や貴族の衣服について</p> <p>2回 明治・大正・昭和 近代服飾 振袖の変化と銘仙お召等おしゃれな着物</p> <p>3回 安土桃山から江戸時代の小袖の変遷</p>		
評価方法	出席状況、提出物		

授業科目名	着装Ⅱ		
年次	和裁科・2年次	時間数	20時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	着物の他装ができるようになり、様々な帯結びができるようになる。		
授業概要	前期は1年時の復習から始まり、普段着から準礼装までの他装を学ぶ。後期は、帯結びに重点を置いて様々な変わり結びを学ぶ。また、3年生への導入として女袴の着せ方や、国家検定についても触れる。		
到達目標	自装に加えて、基本的な他装ができるようになる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 自装の復習・他装の復習 2 体型別補正と長襦袢、着物の着せ方 3 着物の着せ方と袋帯の二重太鼓 4 着物の着せ方とお文庫結び 5 男性浴衣の着せ方(復習) 6 浴衣の着せ方(復習) 7 2・3・4年生合同 浴衣の着せ方 8 着物の着せ方とふくら雀 9 着物の結び方と立矢結び 10 着物の着せ方と変わり結び① 伊達衿の使い方 11 神社へ行くための着替え(他装) 12 着物の着せ方と変わり結び② 伊達衿の使い方 13 着物の着せ方と二重太鼓(復習) 14 テスト前練習 15 テスト 16 国家技能検定着付け技能士2級受験に向けて 17 女袴の着付け①② 		
評価方法	出席状況・実技試験・授業態度		

授業科目名	和裁実習 裁断・裁断理論Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	70時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	裁断テキスト 知識 裁断テキスト 実習 (大原和服専門学園)
授業目的	袷長着の形、構成、寸法を理解し、裁断の手順を理解する。柄付け(絵羽物など)による裁断手順を理解する。四ツ身単衣長着の裁断手順を理解する。		
授業概要	裁断の基礎基本を理解するため袷長着の裁断の知識を学ぶ。袷長着の種類による裁断の違いや体型・柄や落款、ネーム、紋の位置が裁断作業への影響を考えられるようになる。		
到達目標	裁断の基礎・基本を理解する。 ○絵羽物の裁断手順を理解する。 ○落款・ネーム・紋を理解する。		
授業計画	<p>30時間 袷長着 絵羽物手順</p> <p>20時間 袷長着 落款・ネーム・紋</p> <p>20時間 四ツ身単衣長着</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 裁断・裁断実習Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	155時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	裁断テキスト 知識 裁断テキスト 実習 (大原和服専門学園)
授業目的	裃長着の基本的な裁断ができるようになる。		
授業概要	裁断の手順を身に付けるため裃長着の裁断実習をおこなう。加工伝票の読み取り、検反・検尺・見積り・柄合わせなど一連の流れができるようになる。		
到達目標	裃長着の裁断ができるようになる。○加工伝票の読み取りができる。○絵羽の柄合わせができるようになる。○裃長着の検反・検尺・見積りができるようになる。		
授業計画	<p>50時間 単衣長着裁断</p> <p>50時間 長襦袢裁断</p> <p>55時間 裃長着裁断</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 基本製作・被服材料講義Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	32時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	和服地の様々な絹の扱いを理解する。		
授業概要	和服地の様々な絹の扱い方(ちりめん・紬・絞りなど)を講義と演習を通して理解する。		
到達目標	和服地の絹の扱い方(ちりめん・紬・絞りなど)を理解する。		
授業計画	11時間 ちりめん 11時間 紬 10時間 絞		
評価方法	出席状況・提出課題		

授業科目名	和裁実習 基本製作・裁縫理論Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	100時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	着物の作り方を理解するため、基礎練習や部分縫いを通して理解する。		
授業概要	着物の作り方を理解するため、作り方を講義で学び部分練習をおこなう。		
到達目標	○着物の各種類の作り方がわかる。○着物の各箇所の始末がきれいにできるようになる。		
授業計画	<p>24時間 基礎実習</p> <p>24時間 単衣長着</p> <p>24時間 袷長着</p> <p>7時間 四つ身浴衣</p> <p>7時間 子供物身揚げ</p> <p>7時間 名古屋帯</p> <p>7時間 文化帯</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 基本製作・製作実習Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	400時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	和裁の基礎・基本を実習を通して理解し身につける。袷長着の縫製実習を通して和裁のプロ技術の基礎を身に付ける。四つ身浴衣、身揚げ、名古屋帯、文化帯の製作ができる。		
授業概要	袷長着の種類・柄の判断・素材の対応・体型の違いなどの基本的な考え方を袷長着の課題製作実習をおこないわかるようになる。四つ身浴衣、身揚げ、名古屋帯、文化帯の製作実習をおこなう。		
到達目標	プロ和裁の基礎・基本を身につける。 ○袷長着の種類・柄の判断・素材の対応・体型の違いを理解する。 ○袷長着の作り方を理解し縫えるようになる。 ○学習習慣を身に付ける。常に向上心を持ち取り組み技術習得に励む姿勢を身に付ける。 四つ身浴衣、身揚げ、名古屋帯、文化帯の製作ができる。		
授業計画	88時間 基礎実習 125時間 単衣長着製作実習 125時間 袷長着製作実習 20時間 四つ身浴衣製作実習 14時間 子供物身揚げ実習 14時間 名古屋帯製作実習 14時間 文化帯製作実習		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 課題製作・講義Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	65時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	袷長着・単衣長着(木綿・絹)・長襦袢の産学協同システムの実践的な課題の扱い方を理解する。		
授業概要	基本製作で学んだ着物の縫製を、産学協同システムの実践的な課題を扱い方を理解する。課題製作の課題の実習前に、伝票の確認及び製作についてその都度教授を受ける。		
到達目標	○産学協同システムの課題の扱い方が理解している。○伝票を理解できる。○予習・復習をおこない、わからない点を確認できる。		
授業計画	<p>32時間 単衣長着(木綿・絹)</p> <p>14時間 長襦袢</p> <p>19時間 袷長着</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 課題製作・実習Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	421時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ・大裁女物単衣長着 (1)木綿仕立て(浴衣)・大裁女物無双袖裾折り返し長襦袢 (大原和服専門学園)
授業目的	袷長着・単衣長着(木綿・絹)・長襦袢の産学協同システムの実践的な課題実習を通して、プロ和裁士の基礎的な和裁の実践力を身に付ける。		
授業概要	基本製作で学んだ着物の縫製を、産学協同システムの実践的な課題の実習を通して、プロ和裁士の基礎的な和裁の実践力を身に付ける。		
到達目標	○伝票を理解し、間違いなく縫製ができる。○予習・復習をおこない、わからない点を確認し実習をすすめることができる。○課題提出日を守ることができる。		
授業計画	<p>210時間 単衣長着(木綿・絹)</p> <p>105時間 長襦袢</p> <p>106時間 袷長着</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 進級課題製作・講義Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	60時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	産学協同システムの教材を使用し、単衣長着(木綿・絹)・単衣羽織・長襦袢・袷長着が一人で縫い上げ、課題製作後の品質確認・課題をフィードバックする。		
授業概要	課題提出日にあわせて単衣長着(木綿・絹)・単衣羽織・長襦袢・袷長着の制作を一人で縫い上げ、課題製作後の品質確認・課題をフィードバックする。		
到達目標	基本製作・課題製作で学んだ浴衣(男・女)・単衣羽織・長襦袢・袷長着をテキストや教員などに確認をせずに一人で縫い上げることができる。		
授業計画	<p>30時間 単衣長着(木綿・絹)</p> <p>15時間 長襦袢</p> <p>15時間 袷長着</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	和裁実習 進級課題製作・実習Ⅱ		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	156時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ(大原和服専門学園)
授業目的	産学協同システムの教材を使用し、単衣長着(木綿・絹)・単衣羽織・長襦袢・袷長着が一人で縫い上げることができる。		
授業概要	課題提出日にあわせて単衣長着(木綿・絹)・単衣羽織・長襦袢・袷長着の制作を一人で縫い上げる実習を行う。		
到達目標	基本製作・課題製作で学んだ単衣長着(木綿・絹)・単衣羽織・長襦袢・袷長着がテキストや教員などに確認をせずに一人で縫い上げることができる。		
授業計画	<p>78時間 単衣長着(木綿・絹)</p> <p>18時間 長襦袢</p> <p>60時間 袷長着</p>		
評価方法	出席状況・提出物・提出課題		

授業科目名	企業臨地実習		
学科・年次	和裁科・2年次	時間数	33時間
授業方法	実習	実務教員科目	-
担当	大原敏敬	テキスト	なし
授業目的	学んできた和裁技術の社会での活用について経験するため、企業で実践的な職場体験をおこなう。		
授業概要	企業との定めた受け入れ期間に、企業での実践的な職場体験を行う。		
到達目標	学んできた和裁技術の社会での活用について理解する。社会で求められる職業人としてのスキルを理解する。		
授業計画	33時間 企業臨地実習		
評価方法	出席状況・提出課題・取り組み姿勢		

授業科目名	校外学習Ⅱ		
学科・年次	和裁科 2年次	時間数	13時間
授業方法	校外学習	実務教員科目	
担当	各担任	テキスト	なし
授業目的	古都奈良・京都で五感を通して日本文化や着物についてフィールドワークで学ぶ		
授業概要	古都奈良・京都は古い木造建物も多く、着物を着る観光者も増えているため、着物ユーザー目線を養うとともに着付けの練習機会として着物を着る機会として活用し、日本文化や着物に関する施設等を訪問し、学園で学んでいる着物を多面的にとらえられるように校外学習を実施する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○着物を着て外出できる。 ○着物をつくることと着物を着ることのつながりを考えられるようになる。 ○日本文化や着物に関することを学ぶ 		
授業計画	<p>1回 文楽鑑賞</p> <p>2回 着物を着て正倉院展に行く</p>		
評価方法	出席状況・提出物		